

政治・経済定点観測レポート

## ウズベキスタン NOW

【第 29 号:2014 年 1 月－2 月期】

- \* 本レポートは ROTOBO の協力者である現地専門家の執筆によるものです。内容は執筆者の個人的見解であり、ROTOBO の組織的見解とはいかなる意味でも関係ありません。内容の無断転載、引用は堅くお断りします。

### 経済概況

2013 年のウズベキスタンの GDP は 118.987 兆スムであり、前年比成長率は 8%であった。

貿易黒字は 12 億 9 千万ドル、輸出の伸びは 2013 年比 10.9%に達した。輸出高は 150 億 8700 万ドル、輸入高は 137 億 9900 万ドル（7.7%増）であった。主要な貿易相手国は従来どおりロシア（貿易総額の 27.5%）、中国（13%）、カザフスタン（10.5%）、韓国（8.2%）だった。

2013 年のウズベキスタンのあらゆるソースによる固定資本投資額は 11.7%増の 130 億ドルとなった。そのうち 70%以上が工場建設に向けられた。外国投資は 30 億ドルを超え、そのうち 72%以上が直接投資であった。

国家予算の執行結果は GDP 比 0.3%の財政黒字だった。2013 年の経済に対する租税負担は 21.5%から 20.5%に下がり、個人の最低所得税率は 9%から 8%に下がった。

公式データによると、2013 年のウズベキスタンの金外貨準備高は貴金属価格の下落にもかかわらず 2%増大した。対外債務は GDP 比 17%あるいは輸出高の約 60%であった。政府は 2013 年のインフレ率を 6.8%と評価している。

ウズベキスタン政府は、2014 年の経済成長率を 8.1%と予測している。しかし国際機関は、2014 年のウズベキスタン経済は若干減速すると考える傾向にある。

世界銀行は、ウズベキスタンの 2014 年の GDP 成長率は 2013 年の 7.4%に対して 7%に、2015 年には 6.7%に下がると予想している。2013 年の成長率は 7.4%と評価されている。

国連の専門家の予測はより楽観的であり、2014、2015 年のウズベキスタンの経済成長率はそれぞれ 7.1%と 7.4%になるとしている。しかしながら国連もウズベキスタンの経済成長は若干減速すると予想している。国連の評価によると 2013 年のインフレ率は 10%だったが、2014 年は 11%、2015 年は 8.8%になる。

政府の楽観的な予測は、既存の工場の近代化および新規建設などの経済基盤への大規模な投資計画の続行やビジネス環境の大幅な改善計画の実施を根拠としていると思われる。

## 投資政策

公式発表によると、ウズベキスタンでは 2014 年中に 166 件の投資プロジェクトに 39 億ドルを超える外国投資および融資が投入される予定である。内訳は政府の保証付の投資が 74 件のプロジェクトに対する 12 億 1,400 万ドル、直接外国投資が 92 件のプロジェクトに対する 26 億 7000 万ドルである。

あらゆる資金源からの投資総額は約 143 億ドルとなる（10.1%の伸び）。これによって投資を GDP 比 23%の水準に維持することができる。投資総額の 73%以上が工場建設に、残りは主に機械・設備の購入に向けられる。

最近数年と同様、政府が特に注力しているのは基盤分野における大規模・中規模プロジェクトの実施である。2014 年には総額 44 億ドルの 150 以上の大規模工場が稼働開始する予定である。その中には、デフカナバト・カリ肥料工場の生産力を 20 万 t から 60 万 t に拡大するプロジェクト、ホラズム州に乗用車「ダマス」の工場を建設するプロジェクト、ウズベキスタン・中国ガスパイプライン第 3 ルート建設を終了するプロジェクトが含まれる。また、スルギリ・ガス田をベースとするウスチュルト・ガス化学コンビナートの建設も続行される。

復興開発基金は今年ウズベクエネルギーに対し 5 件の新規投資プロジェクトの実施のために 8 億 7,200 万ドルの融資を行う。そのうち 3 億ドルがナマンガン州のトゥラクルガン火力発電所の建設に、2 億 7,000 万ドルがタヒアタシュ火力発電所における 250MW のコンバインドサイクル設備 2 基の建設、1 億 2200 万ドルがサマルカンド州の 100MW の太陽光発電所の建設に向けられる。

道路整備への投資は 5 億 6,500 万ドルから 15%増の 6 億 4,750 万ドルになる予定である。約 4 億 6,800 万ドルがウズベク国営自動車幹線道路が所有する道路 330 km の改修に当てられる。そのうち 2 億 2550 万ドルを国際金融機関の資金が占める。

製造業の生産コストを平均 10%削減する必要性に関する政府の決定も投資プログラムを後押しするだろう。生産コスト削減は主に工場のエネルギー効率の改善、IT 技術導入による非生産コストの最適化によって達成する計画である。特に、ウズベクネフチェガス石油化学コンビナートで 14.7%、国営株式会社ウズベクエネルギーで 14.5%、公開型株式会社アルマリク採掘冶金コンビナートで 7.4%、国営株式会社ウズヒムプロムで

11.5%、株式会社ウズアフトプロムで 6.9%、ウズエルテフプロム協会で 10.6%の生産コスト削減が計画されている。

大規模な国家投資プログラムの他、政府は 2014 年に投資環境の改善に特に注力する意向である。例えば、2014 年 1 月 17 に開かれた年次閣僚会議では、(1)世界銀行の「ビジネスをしやすい国ランキング」での順位改善のためにもビジネスの行政的障壁を低減する、(2) 中小企業振興のため地方のエネルギー供給および交通インフラを整備する、(3) 特定の企業に残っている種々の優遇や特典の削減によって競争を発展させる問題が強調された。

ウズベキスタン中央銀行は数年ぶりに公定歩合を 12%から 10%に引き下げた。これに関連して、工場の近代化や技術革新の実施、中小企業のマイクロクレジットや振興に当てられる民間銀行の融資利率も引下げられることが期待される。

ウズベキスタンは外国投資家のためのビザ発給を簡略化し、外資系企業の登記手続の「ワンストップ」システムの構築を進めている。簡略化により、外国人投資家・起業家はしかるべきマルチプルビザを取得すれば企業への投資が続く期間中ウズベキスタンに入国、滞在する権利が与えられる。これまでは外国人のシングルビザの最大有効期限は 3 ヶ月だった。

多くの点で上記の決定は、高い経済成長率を維持し構造改革を深化させるために外国および国内の民間投資を促進する必要性、2013 年に採択された CIS 自由貿易圏への加盟決定を含めた経済のさらなる自由化に備える必要性による。ウズベキスタンは、2020 年末（あるいは WTO への加盟のどちらか早い方）まで相互貿易における内国民待遇を契約相手に提供しない権利を留保している。

## エネルギー・セクター

韓国の Hyundai Engineering & Construction は、ウズベキスタン南部カシュカダリヤ州における合成燃料工場の技術部分のターンキー建設契約に調印した。2014 年 1 月～2 月に建設用地の準備が開始され、9 月には主要な設備が納入される予定である。計画では建設が終了するのは 2017 年 8 月である。発表によると、工場価額は 41 億ドルとなる。工場は年間にガス 35 億立米を加工し、ディーゼル燃料 86 万 4,000 t、ジェット燃料 30 万 4,000 t、ナフサ 39 万 5,000 t、液化ガス 11,200 t を生産する。Uzbekistan GTL は、ウズベクネフチェガス石油化学コンビナート(44.5%)、南アフリカ Sasol(44.5%)、マレーシア Petronas (11%) が GTL 工場建設のためにシュルタン・ガス化学コンビナートをベースに 2009 年 11 月に設立した合弁企業である。

三菱と国営株式会社ウズベクエネルゴは、ウズベキスタンの火力発電所の運営および保守を行う合弁企業を設立する計画である。

ウズベク側はこのプロジェクトの検討を 2014 年半ばまでに行うことを予定している。現在、三菱はナヴォイおよびタリマルジャンの火力発電所近代化の枠内でコンバインドサイクル設備を納入している。ウズベク側は三菱を発電分野のその他の大規模プロジェクトの実施における優先的パートナーと考えている。

ベトナムの Petrovietnam Exploration & Production (PVEP) は、ウズベキスタン北西部ウスチュルト地域モラバウル投資ブロックで地質探査を開始した。二次元地震探査データの処理に関する入札が広告されており、結果は 2014 年 3 月に発表される。地震探査作業は 2014 年末までに実施する計画であるが、作業の量は公表されていない。2012 年 6 月に PVEP とウズベクネフチェガス石油化学コンビナートは、総面積約 3,600 km のモラバウル投資ブロックにおける 5 年間の地質探査実施協定に調印している。ベトナム企業の投資額は 6,160 万ドルとなる。PVEP はウスチュルト地域でもう一ヶ所コソル投資ブロック（プロジェクト価額 2,940 万ドル）でも探査を行っている。PVEP はまた、ブハラ・ヒワ地域でも地質探査を実施する計画を発表している。

## 自動車セクター

2013 年のウズベキスタンの自動車生産実績は 25 万 1,000 台を超えた。公式発表によると、これは 2012 年比 4.8% 増である。トラックの生産は 36.9%、乗用車は 4.5%、バスは 3.3% 増加した。

Cobalt ブランドの自動車の生産は 60,412 台に達した。同社は 2013 年に Lacetti（現在は生産終了、Gentra に代わる）モデルを 25616 台、Malibu モデルを 4435 台生産した。Gentra モデル（Lacetti の改良型、2013 年 11 月に組立開始）は 8,567 台だった。

2013 年は Nexia モデルの生産が 28.6% 減少して 59,709 台となり、Matiz は 1.43% 減の 31205 台、Damas は 9.6% 減の 22,232 台、Spark は 11.3% 減の 29,290 台、Captiva は 1.8% 減の 4,565 台となった。

2013 年は自動車部品の生産が成長した。自動車エンジン（4.4 倍）、ボディ（2.7 倍）、ホイールディスク（34.4% 増）その他の部品の生産が増大した。

ウズベキスタン・ドイツ合弁企業の MAN Auto-Uzbekistan に対して 2017 年 1 月 1 日までの期間税金および関税特典が延長された。同社は、すべての種類の税金、ウズベキスタン国内で生産されていない商品および設備の輸入にかかる関税を 3 年間免除される。当初は上記の特典は 2009 年 8 月 1 日から 2013 年末までとなっていた。

MAN Auto-Uzbekistan は、2009 年 8 月に株式会社ウズアフトロム（51%）と MAN Nutzfahrzeuge AG（49%）によって設立された。2010 年 9 月に同社はサマルカンド自動車工場において MAN トラックの組立を開始した。MAN Auto-Uzbekistan は 2012 年 7 月にサマルカンド州で大型商用車の新工場を稼働開始した。総額 3,000 万ドルの第一期工事はセミノックダウン方式による年間 3,000 台の中型および大型 MAN トラックの生産を見込んでいる。工場の生産能力は将来年産 1 万台まで増大されうる。

### その他のセクター

大韓航空は、国営株式会社ウズベキスタン航空とのナヴォイ国際空港管理に関する協定を 2019 年 1 月 1 日まで延長した。この期間に双方はナヴォイ空港を国際ロジスティクス・ハブにするためトランジット能力を増強する計画である。現在大韓航空はナヴォイとの間に週 11 便程度を就航させている。ウズベキスタンはナヴォイ国際空港ロジスティクスセンター創設プロジェクトの枠内で大韓航空に対する税金・関税特典を延長した。2019 年 1 月 1 日まで大韓航空は、ナヴォイ国際空港管理のために輸入する商品・設備にかかる関税（関税手数料を除く）を免除される。大韓航空はまた、ウズベキスタン国内で得た収入に対する所得税および常時ウズベキスタンで働く同社従業員の個人所得税を免除される。

国際航空運送協会（IATA）は、2017 年までにウズベキスタンは最も急速に発展する航空輸送市場の一つとなり、年間成長率は 10.3%になると予測している。IATA には世界の 240 の航空会社が加盟しており、国際輸送の 84%を担っている。

ウズベキスタンは、農業機械製造の持株会社を設立する計画である。政府は 2014 年第一四半期末までに農業機械・設備を生産する一連の企業の発展・近代化の提案を策定する。対象企業リストに入っているのは、公開型株式会社タシケント・トラクター工場（TTZ）、公開型株式会社チルクセルマシュ（タシケント州チルク）、公開型株式会社アグレガートヌイ・ザボド（タシケント）、公開型株式会社オニクス（タシケント）である。ウズベキスタンの農業機械市場の規模は、トラクター約 5,000 台とコンバイン 500 台を含め年間 1 万台と評価されている。現在は様々な農業機械が年間 1,000～1,500 台輸入されている。